四国八十八札所お遍路報告書

写真・文　後藤隆徳

年月日　　２０１３年月１１月０８日（金）～１４日（木）
回　数　　第７回・四国お遍路

参加者　　後藤隆徳、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、高岡八千代、土屋弥生、陶山泰信（ランニング）＝７名＋１名

巡礼寺

五十四番札所・延命寺（えんめいじ）　愛媛県今治市阿方甲６３６
ご本尊＝不動明王　　**のうまくさんまんだ　ばざらだん　せんだ　まかろしゃだ　そはたや　うん　たらた　かんまん**

メモ＝松山から瀬戸内海沿いにたどると、今治の手前六㌔ほどのところに近見山（海抜二四四㍍）がある。いまでは斎灘、燧灘にかこまれた芸予諸島の南半と、来島海峡の全景を展望する絶好の地となっているが、昔この山頂に延命寺があった。寺の創建は行基菩薩が不動明王を刻んで本尊として安置したのにはじまり、後に嵯峨天皇の勅願によって弘法大師が再興し、近見山円明寺と号した。

そのころ七堂伽藍が整い、荘厳をきわめていたが、たびたびの兵火にかかり、そのたびに寺は移転し、天正年間の兵火にあってから山の麓に移建された、明治以降寺名が円明寺から延命寺に改められた、宝永元年（一七〇四）の梵鐘は住職の私財で鋳造したもの。

それ以前の梵鐘は戦乱の合図の鐘に使われ夜になると叩かないのに「いぬるいぬる」と鳴くので恐れられた。また、松山城へ持出されそうになって「イヤーン、イヤーン」と鳴くので置き去りにされたという。

五十五番札所・南光坊（なんこうぼう）　愛媛県今治市別宮町 3-1
ご本尊＝大通智勝如来　　**おんまか　びじゃな　じゃなのう　びいぶう　そわか**
（なむ　だいつうち　しょうぶつ）

メモ＝今治から船で一時間のところに大三島があり、大山祇神社がある。大宝三年（七〇三）この神社の別宮を越智郡日吉郷に移し、二十四坊あった別当のうち八坊を和銅五年（七一二）との二回にわたって同地へ移した。弘法大師は四国巡錫のとき、別宮に参拝し、坊で法楽をあげて霊地とした。後に天正年間の良曽我部元親の兵火で八坊は焼失し、その中で禄の少ない南光坊のみが再興され、明治の神仏分離まで別宮の法楽所として存続した。この間藤堂高虎は今治城修築中に薬師堂を建立し、次の城主久松氏も祈祷所に定めて祭祀料を奉納したという。明治以降は本社本尊である大通智勝仏を移したが、昭和二十年八月の戦災で本堂、薬師堂などを失い、大師堂と護摩堂が残された。近年本堂が再建されている。ご本尊の大通智勝仏は法華経第七化城諭品に説かれており、釈迦如来は大通智勝如来の第十六番目の弟子である、と法華経に説かれる。寺には書家、川村驥山の菅笠や筆塚がある。

五十六番札所・泰山寺（たいざんじ）　愛媛県今治市小泉１－９－１８
ご本尊＝地蔵菩薩　　**おん　かかかび　さんまえい　そわか**

メモ＝弘仁六年、弘法大師がこの地を巡錫した時梅雨のため蒼社川の水が氾濫していた。伊之子山（八七二㍍）附近に源を発する蒼社川は、玉川村から今治市の東南を抜けて燧灘へ流れ込んでいる。そのころこの地に伊予の国府があったが、国の力では防ぎようがなく、毎年梅雨期になると川が氾濫して田地や家屋を流し、人命を奪った。農民は恐れ苦しみ、この川を人取川といって悪霊のしわざと信じていた。そこで大師は川原に壇を築き「土砂加持」の秘法を七座厳修された。満願の日にご本尊地蔵菩薩を感得し、祈願成就したので一寺を建立してご本尊を安置し、延命地蔵十大願の第一「女人泰産」から寺名をとられ「泰山寺」とした。後の天長元年（八二四）淳和天皇の勅願所となり、七堂伽藍も完備、塔中十坊を有する大寺となった。しかしたびかさなる兵火で縮少し、山麓の現在地へ移建されるのである。近くに遍路へのサービス機関の同行新聞社がある。

五十七番札所・栄福寺（えいふくじ）　愛媛県今治市玉川町八幡甲 200
ご本尊＝阿弥陀如来　　**おん　ありみたてい　せんから　うん**

メモ＝府頭山(八幡山)を目指して田圃道を歩み山麓からの急な参道を登る。正面は八幡宮、途中から右へ折れて栄福寺の境内へ入る。明治の神仏分離まで栄福寺は勝岡八幡と称し、神仏が同居していた。

縁起によれば、嵯峨大皇の勅願により弘法大師の開創。大師が瀬戸内海を巡錫し、内海の風波海難の平穏を祈って大護摩を修されていると、海上はたちまち穏やかになり、海中より阿弥陀如来を感得し、ご本尊として奉安した。本堂は八幡宮への参道を背にし、他の堂より一段高い所にある。本堂向かって右手に回廊があり、大師堂、薬師堂など諸堂がコの字型に結んでいる。

本堂回廊には昭和八年に奉納されたイザリ車と松葉杖がある。奉納者の宮本武正さんは当時十五歳で、巡拝中にこの地で歩けるようになり、感謝のあまりイザリ車を奉納したのである。

五十八番札所・仙遊寺（せんゆうじ）　愛媛県今治市玉川町別所甲 483
ご本尊＝千手観世音菩薩　　**おん　ばざら　たらまきりく　そわか**

メモ＝仙遊寺は、天智天皇（662～672）の勅願より創建された。本尊は千手観音。海から上がった竜女が一刀三礼して彫り上げたといわれ、作礼山の名の由来にもなっています。その後、養老２年までの４０年間阿坊仙人という僧がここで修行、諸堂の整えたが雲と遊ぶかのように、ある日こつ然と姿がかき消えた。仙人の話は人々の口から口へと伝えられ、いつの間にか寺の名となった。明治時代、宥蓮上人という高僧がこの寺の山主となり、その法力で人々の信仰を進めたが衆生済度の思いをこの世に残すべく、生きながら土中に埋まって入定した。境内にはこの僧の入定塚がある。仙遊寺の参道途中に、弘法大師の御加持水があり、この井戸から湧き出た霊水は、多くの村人を諸病から救ったと伝えられ、いまだに人々の足がたえない。仙遊寺文庫には天皇、諸大名の御文、諸状が多数残されています。

五十九番札所・国分寺（こくぶんじ）　愛媛県今治市国分４－１－３３
ご本尊＝薬師瑠璃光如来　　**おん　ころころ　せんだりまとうぎ　そわか**

メモ＝創建当初の規模からすれば現在の寺域は縮少されているが、本堂を中心に大師堂、金毘羅堂

など整備されて建ち並んでいる。

ご本尊は薬師如来（重文）天平十三年（七四一）聖武天皇の勅願によって行基菩薩が開創し、七堂伽藍は整備されて諸国の国分寺にくらべ豪壮なかまえであった。第三世智法律師のときに弘法大師が長く留まって五大尊の絵像一幅を残し、真如も二ヵ年滞留し、法華経の一部を染筆して残した。その後三度の戦火にあいながら、いずれも国主などの力によってまもなく復興された。しかし天正十二年（一五八四）の戦火で四たび堂塔を焼失してからは、経済的な支援者がなく、その後は復旧せず茅葺の小堂が建っているのみだったが、寛政元年（一七八九）恵光上人が金堂（本堂）を建立し、その後、諸堂が再建された。書院の展示室には、奈良時代から平安時代初期にかけての鐙瓦や字瓦が保管されている。近くに七重塔の礎石がある。

六十番札所・横峰寺（よこみねじ）　愛媛県西条市小松町石鎚甲 2253
ご本尊＝大日如来　　**おん　あびら　うんけん　ばざら　だどばん**

メモ＝昔から難所のひとつに数えられ、近年林道が開通し、境内近くまで自動車が入れるようになったけれど、今もここだけは歩くという遍路も多い。五十九番からは湯浪より登る。谷川沿いの山路だが、やがて勾配の急な狭い道になる。一方、石鎚農協前からは道巾も広く歩きやすいが、急勾配の坂道で二．五㌔登ったところに小堂があり、さらに五百㍍登れば頂上の星ガ森（海抜八百メートル）。石鎚山（一九八二㍍）の西の遥拝所になっており、石鎚山のながめはすばらしい。横峰寺へはここから五百㍍下る。仁王門を入ると右に権現造りの本堂がある。白雉二年（六五一）役行者小角が星ガ森で練行中に石鎚山項に蔵王権現が元現した。そこで小角はその尊像を刻み小堂を建立して安置した。弘法大師はこの地で星供を修され、石鎚山へ二十一日間日参された。結願の日再度蔵王権現が示現したので大師は当山を霊山と思われ、大日如来を刻み本尊とし、霊場に定めた

六十一番札所・香園寺（こうおんじ）　愛媛県西条市小松町南川甲 19
ご本尊＝大日如来　　**おん　あびら　うんけん　ばざら　だどばん**

メモ＝寺伝によれば、用明天皇の病気平癒を祈って聖徳太子が創建し、このとき金衣白髪の老翁が飛来してご本尊を安置したという。天平年間には行基菩薩も留錫し、大同年間になると弘法大師が巡錫された。あるときこの地で身重な女が苦しんでいたが、大帥のお加持で安産した。この勝縁によって大師は唐から奉持した大日如来の金像をご本尊の胸に納め、栴檀の香をたいて護摩修法された。これにちなんで栴檀山香園寺と号した。

大正のはじめ、住職の山岡瑞圓師は子安講を創始し、難産で苦しむ女性の祈祷をされた。子安講は発展し、「子安の大師」で知られる。

寺は小松町のはずれにあり、山麓の一万坪の境内には、昭和五十一年建立の大聖堂（本堂、大師堂）二百五十名収容の宿坊、庫裡などが建ち並んでいる。それだけに大きな団体や、巡拝日程の変更などで宿泊に因っている遍路など、受入れ体制が整っているだけに安心して参籠を願うことができる。

六十二番札所・宝寿寺（ほうじゅじ）　愛媛県西条市小松町新屋敷甲 428
ご本尊＝十一面観世音菩薩　　**おん　まか　きゃろにきゃ　そわか**

メモ＝伊予小松町の中心、国道沿いに寺はある。当初は聖武天皇の勅願により伊予一宮の法楽所として中山川下流の白坪に建立された。そして金光明最勝王経を奉納し、僧道慈を任じて講読させた。その後弘法大師は寺に長く留まり、光明皇后にかたどって十一面観世音を彫刻して本尊とし、寺号を宝寿寺とされた。そのころ国司越智公の夫人は難産で大師に祈祷を乞われた。大師は境内の玉ノ井の水を加持して夫人に与えた。

その結果夫人は若君を安産し、玉澄と命名し「さみだれのあとに出でたる玉ノ井は、白坪なるや一ノ宮かな」と詠じられ、この歌を献納した。それ以来安産の観世音として信仰をあつめた。白坪にあった寺は洪水のため堂宇が破損したので天養年間に修復され、山号は天養山となったが、その後荒廃し、寛永年間に一柳氏が現在地近くに移建し、四国遍路の行者宥信上人が再興した。明治に入って廃寺となるが、同十年に大石龍遍上人が再建している

六十三番札所・吉祥寺（きちじょうじ）　愛媛県西条市氷見乙１０４８
ご本尊＝毘沙門天　　**おん　べい　しらまんだや　そわか**

メモ＝寿寺から国道十一号線を一・三㌔ゆくと道沿いに吉祥寺がある。ご本尊は毘沙聞天で脇士は吉祥天と善膩師童子。弘法大師が人々の貧苦を救わんものと一刀三礼して刻まれた。そのころ寺は坂元山にあり、寺域も広く塔中二十一坊を有する大伽藍であったが、天正の兵火で全山焼失し、万治二年（一六五九）末寺の檜木寺と合伴して現在地に建立された。

ご本尊と大師堂の参拝がすんだ遍路は、本堂前の成就石に向かって歩き出す。目をつぶり、願いごとを念じながら、金剛杖を下段にかまえる。そして石の穴に金剛杖が通れば願いごとが成就するという。

寺宝にマリア観音像がある。高麗焼の純白な像（高さ三十㌢）は長曽我部元親がイスパニア船サン・クェリッペ号の船長バードレから託されたもので、その後家臣の秦備前守が秘蔵し、家族に不幸が続いたので吉祥寺へ預けたという。慈愛あふれる美しい尊容。

六十四番札所・前神寺（まえがみじ）　愛媛県西条市洲之内甲 1426
ご本尊＝阿弥陀如来　　**おん　あみりた　ていせい　からうん**

メモ＝石鎚山（一九八一㍍）は七～八世紀のころ、役小角によって開かれたと伝えられ、古くから日本七霊山の一つに数えられている。小角は山頂で苦修練行し、蔵王権現を感得し、尊像を刻んで奉安した。その後桓武天皇が病気平癒を祈願し成就したので七堂伽藍を建立し金色院前神寺とした。弘法大師も登山して断食行求聞持法を修し、霊場に定めた。前神寺は山頂天狗岳にある石鉄権現の別当寺で、また、明治の神仏分離で寺は現在地に移り、慶長年間に建てられた山頂近くの常住（海抜一、五〇〇㍍）には前神寺の出張所があり、ここを奥前神寺といい、麓の本寺を里前神寺という。毎年七月一日から十日間が「お山開き」里前神寺より黒瀬峠を越え成就から石鎚山頂へ、白衣に身をかためた数万の信者が仏名を称えながら登る。本堂にはご本尊の阿弥陀如来が安置され、境内には大師堂、金毘羅堂、お滝不動、薬師堂、石鉄権現堂不動堂などがある。

六十五番札所・三角寺（さんかくじ）　愛媛県四国中央市金田町三角寺甲７５
ご本尊＝十一面観世音菩薩　　**おん　まか　きゃろにきゃ　そわか**

メモ＝三角寺山（海抜四五〇㍍）の中腹にある寺まで急な坂道を登る。仁王門からは正面に庫裡、左に本堂がある。聖武天皇の勅願によって行基菩薩が開基し、弘法大師が登山されてご本尊十一面観世音菩薩を刻まれ、さらに不動明王を彫刻し、三角形の護摩壇を築き、二十一日の間降伏の秘法を修された。三角寺の寺号はこの護摩壇に由来する。嵯峨天皇はご本尊を深く信仰し、寺領三百町歩を下賜し、堂塔を造営している。ところが天正九年の兵火で灰燼に帰した、現在の本堂は嘉永二年（一八四九）の再建という。ご本尊は子安観音・厄除観音として信仰されている。それは子宝に恵まれない婦人が寺の庫裡にある杓子をひそかに持出し、そのしゃもじを使い夫婦仲良く食事をすると子宝に恵まれるという風習で、安産すれば新しい杓子を持ってお礼まいりにくる。これで伊予の二十六ヵ所の霊場を打ち終え讃岐路へ入る。雲辺寺への途中に番外椿堂があり参拝したいもの。

第１日目

１１月０８日（金）晴　　歩行距離＝約９Ｋｍ

清水町４：００ー瀬戸大橋ー松山ＩＣー前回最終地・鎌大師先発１５：０１ー遍照院先１６：４０ービジネス・ホテル「つよし」１７：３０（泊）

宿＝お遍路・ドライバー５８００ー、応対等全体的に良い

前回最終地、鎌大師上の峠着。天気は良かった。今回もＤ観光に世話になった。大津ＳＡまでツードライバーで来て、ここからＧドライバーは新幹線で帰った。いつもながらご苦労様です。有難うございました。

峠を下って行く。両側にミカン畑が広がる田舎道だった。下りきるとタオル製造工場があった。もうここは西条市でタオル生産が盛んな土地だった。珍しいので工場責任者とおぼしき方に撮影をお願いすると快く応じてくれた。工場は若い衆が何人かいて活気に満ちていた。地場産業が盛り上がってくれることを願った。

ここから海に沿って歩いて行く。この辺は「瓦」作りが盛んらしい。道路周辺に「瓦」製造所の看板が多い。ただ聞けば、原材料はここが生産地でなく、他所から運ばれて来るようだ。暫く歩き「やくよけ大師・遍照院」着。ここの仁王様は瓦製だった。今日はこの先で一日目を終了した。

第２日目

１１月０９日（土）晴　　歩行距離＝約２３Ｋｍ

バス「つよし」発６：３６ー遍照院先発７：２５ー５４番札所・延命寺１０：００～３０ー５５番札所・南光坊１１：２５～５０ー今治駅１２：０３ー昼食「瀬戸寿し」１２：１０～１３：００ー５６番札所・泰山寺１３：３６～１４：００ー５７番札所・栄福寺１５：００～２１ー５８番札所・仙遊寺１６：００（泊）

宿＝お遍路５８００ー、ドライバー３０００ー、応対等全体的に良い

「つよし」の女将に見送られ昨日最終地にバスで向かう。いい女将だった。昨夜、私が「常温ビア」を注文したら、珍しくあった。概ね殆どの所は全て冷蔵庫に入れる。何故、日本は何でも冷やしたがるか分からない。この時期、冷蔵庫に入れない温度のビアが美味しいのだ。女将曰く「うちのお父さんも常温ビアを飲んでいます」だった。（笑い）

松山市

浅海の海賊うどん屋

菊間の漁師さん

遍照院

ビジネスホテル「つよし」

越智さん表札

Ｒ１９６を進む。時折、予讃線が通過する。菊間の先に「太陽石油・四国事業所」があった。「太陽石油」は、静岡では余り聞かない名前だ。裏道に戦没者の墓があった。一般の墓と違う「四角錐」の背の高いものだった。

道端でオジサンが黙々と草むしりをしていた。そういえば辺の道路は綺麗だった。聞けば、ボランティアで道路花壇を掃除しているそうだ。これは半端なことではない。大西町には「天水瓶」が残る旧庄屋家屋があった。この瓶は防火用の水瓶で屋根の尾根の部分にある。以前、高野山でも見た。

５４番札所・延命寺着。この手前の「宅間」という所に「たくま饅頭」が売っていた。Ｓさんが買ってきて、寺でいただいた。平べったい饅頭で軽くて良かった。ここから５５番札所・南光坊に向かう。街中にお城みたいなホテル？マンション？があった。

南光坊は街中の大きな寺だった。すぐ脇には、高野山今治別院があった。南光坊でお勤め後、今治駅前に出て昼食場所を探す。結局、駅前の「瀬戸寿し」に入る。品数が多く安価でなかなか良かった。午後は５６番・泰山寺に向かう。途中、高校野球で有名な今治西高があった。ただ、野球の指導者と思しき方が、校門でユニホーム姿のまま、タバコを吸っているのにはちょっと驚いた。

間もなく、石垣がお城のように立派な泰山寺に入る。お勤め後、５７番・栄福寺に向かう。途中、「四国遍路無縁墓地」があった。昔は、行き倒れの方も多かったのだろう。田舎道から犬塚池を通って５８番・仙遊寺に上る。標高約２８０ｍのちょっとした山。今日の宿はここ。四国お遍路で、初めての宿坊泊。

山上だが、新しく大きく立派な温泉がありビックリした。５０代くらいの女将はガンを患い手術したそうだが、外見上は元気そうだった。翌朝は、住職と一緒に本堂でお勤め。しかし、お勤め開始まで少々待たされた。実は「事情がある」小学生の男子二人が、ここに「修行」に来ているのだが寝坊したらしい。

太陽石油

天水瓶

たくま饅頭

延命寺

立派なお地蔵様

龍泉寺

瀬戸寿し

栄福寺

仙遊寺

全員が揃った所でお勤め。ただ、般若心経が太鼓入りで前述の女将が、大きな太鼓をドンドコドンドコ叩いて行うのには驚いた。（感動？？）でも、それはそれで良かった。

第３日目

１１月１０日（日）晴　　歩行距離＝約２７．６Ｋｍ

５８番札所・仙遊寺発７：３０－５９番札所・国分寺９：１５～３０－そごう三芳本店（昼食・休憩）－１２：００～３０－横峰寺下・小松町地先１５：５０－ホテル「東予」１６：３０（泊）

宿＝お遍路・ドライバー６０００－、応対等全体的に良い

朝、小雨だったが、程なく上がった。境内の観音菩薩立像前で女将さんを入れて記念撮影。長い階段を下って寺を辞す。田舎道を行くと驚いたことに、まだ露地物のキュウリがたわわに実っていた。やっぱりこちらは温かいのだ。

歩を進めて行くと、前方に白装束の行列が歩いていた。俄然、元気が出て追いつく。概ねご年配の男女が約３０名ほど。聞けば高知の方々で、毎月１回分けてお遍路を続けていると言う。先頭の若い衆は旅行会社の人だった。国分寺でお勤め後、湯ノ浦温泉先の世田薬師に入って行った。ここで昼食のようだ。弁当は旅行会社がバスで届けた。地元でも歩いている方がいることを再認識。

我々も湯ノ浦温泉入口から同じ道を辿り三芳町に入る。ボチボチ昼食時で食堂を探すが、この辺りには全く無かった。が、見れば地元のスーパーが一軒あった。ここで昼食をゲット。そしたらここの女将さんが声を掛けてくれ、スーパーの向かいの衣料店で食べて下さいと言ってくれた。

何でも女将さんの妹の旦那様が日大三島の教授だったらしく、現在は別の大学に移っているものの、話は盛り上がった訳。また、旦那様もミカンを半箱持ってきてくれ振舞ってくれた。このミカンはとても美味しかった。感謝・多謝・深謝でした。

昼食後、西条市に入る。山中川を渡り、松山自動車道を潜る。この辺りから道は次第に傾斜を増して横峰寺に向かう。時間も大分遅くなった。

途中、石土神社に１９３１年に造られたコンクリート製の高灯篭があった。ネットにはこんな風に出ていた。今日はこの先でお終い。宿の「東予」に向かった。

仙遊寺山門

露地物キュウリ

他、お遍路さん

ＪＲ予讃線

国分寺

昼食風景

そごう三芳本店

高灯篭

・・・・・町北西部の山際にある，式年祭を記念して造られた灯籠。末広がりの約９．５ｍ高，下部直径約１．５ｍのＲＣ造構造物で，頂部にコンクリートでかたどった宝珠・笠・四面開放の火袋等を頂く。巡礼登山道の途中にあり，地域のランドマークとして親しまれている・・・・（関連ＨＰ）

第４日目
１１月１１日（月）晴　　歩行距離＝約２１．５Ｋｍ

ホテル「東予」発６：３０ー前日最終地発７：１２ー６０番札所・横峰寺９：３３～１０：１１ー６１番札所・香園寺（こうおんじ）１３：１２～４１ー松本商店（昼食）１４：００～２９ー６２番札所・宝寿寺１４：４７～１５：１０ー６３番札所・吉祥寺１５：２７～１６：００ー６４番札所・前神寺１６：４０～１７：０６ー旅館「小松」
宿＝お遍路・ドライバー５７７５ー、応対全体的に良い

昨夜の宿はビジネス・ホテルで一人一部屋。食事は悪くなかった。ただ、この手の宿はオジサンには向かない。部屋は五階で暖気が籠る。しかも窓は開かない。どうしても部屋が乾燥する。やけに暑くて下着一枚で汗が出る。ちょっと心配だった。朝から食欲がイマイチだった。普段全部平らげるが食べきれなかった。風邪かも知れない。

昨日最終地までバスで行き出発。道がダラダラと上っている。横峰寺は標高約７４５ｍ。この地は約９０ｍだから、標高差は６５５ｍ。単純計算なら２時間強掛かる。

バス道路は標高約１８０ｍの休憩所で終わり。ここから山道になる。湧水があり、美味しいらしくオジサンがバイクで汲みに来ていた。山道は沢に沿って上っていた。ちょっと荒れた箇所があったが、まあ問題は無かった。皆さん水を得た魚の様に生き生きと足を運ぶ。ああ、山はイイな～である。

計算通り２時間ちょっとで山門を潜る。山門に書かれた山号は「石鎚山」だった。確かにここの南には四国の最高峰の「石鎚山」がある。静かでイイ雰囲気だった。標高が高いので冬はさぞかし大変だろうと思った。

ご朱印を貰いに行く。今までの様に小僧・アルバイトでなく、住職が自ら書いている。温厚そうな方でかつ重厚な雰囲気を放ていた。いわゆるオーラを感じた。ここは裏から簡単に車で来れるが、歩いて来るからこそ、更にそれを感じるのだろう。

今日は寺数が多い。横峰寺から再び山道を一気に下り香園寺に向かう。香園寺は、今まで見たことがない寺だった。要するに本堂の建物が普通の寺院作りでなく、大きなコンクリト一製の大聖堂があり、その中に本堂と大師堂が収まっていた。

中には黄金色に輝く巨大な大日如来が鎮座していた。四国にこんな寺があったのか・・・・・。驚いた。周りにはツアーの方々がズラーと座っていた。私たちは遠慮気味にお勤めを果たした。ご朱印係りは若い方だったが、感じの良い方だった。

今日も昼食場所がなく探した。結局「松本商店」の軒先を借りて、ビール箱を机にしていただいた。この店の若い女将もイイ方で、ポットにお湯が沸かしてあるので、カップラーメンを食べるなら使って下さいとのこと。本当に有難かったです。
宝寿寺、吉祥寺は大きな寺ではなかった。前神寺に着く。時間が遅くなり、ご朱印が心

横峰寺上り

住職

横峰寺

香園寺

宝寿寺

吉祥寺

前神寺

配だったので、申し訳ないがＳさんにバスで先行して貰っていただいた。前神寺は立派な寺だった。広々とした芝生の境内は気持ちが良かった。今日も気温が低い日で石鎚山方面の山は真っ白だった。今日はここでお終い。

・・・毎年七月一日から十日間が「お山開き」里前神寺より黒瀬峠を越え成就から石鎚山頂へ、白衣に身をかためた数万の信者が仏名を称えながら登る。本堂にはご本尊の阿弥陀如来が安置され、境内には大師堂、金毘羅堂、お滝不動、薬師堂、石鉄権現堂不動堂などがある・・・（関連ＨＰから）

第５日目

１１月１２日（火）晴　　歩行距離＝約２８Ｋｍ

前神寺発６：４９ー小麦（昼食）１２：００～３０ー松屋旅館１５：４０（泊）

松屋旅館＝６５００ー、親子で経営、女将さんはイイ感じ

松屋旅館は、女将・板前の息子でやっている旅館。なかなか感じは良かった。ところが私の風邪は最悪で熱っぽく、夕飯は進まなかった。いつもは、Ｓちゃんと長尻でイッパイやっているが、何と料理半分くらいで最初に席を立った。

熱は微熱だが、下痢が酷く、歩いて油断が出来ない。昨日、薬局で薬・ドリンクを購入。高くて３０００－以上支払った。保険が利く病院は安い。そんな訳で、朝食もイマイチ。辛い所だが頑張るしかない。

前神寺から出発。今日の行程は寺が一つもないので、ひたすら歩くのみ。朝、制服の小学生と行き交う。加茂川橋を渡る。橋の欄干が「鉄琴」で叩くと小学生唱歌が流れた。今日も寒く山は白い。この辺りで早くも下痢が厳しい状況。Ｓちゃんも例によって催し、近くの西条農業高校のトイレを借りて済ませた。先生・生徒が校庭掃除をしていたが、気持ち良く受け入れてくれた。いやはや一安心。

Ｒ１１を行くと単独男性お遍路さんと前後した。定年退職し一気に回っているようだ。女性軍が飴を上げた。昼食は新居浜ＩＣ近くの「手打ちうどん・小麦」に入った。

私は「鍋焼きうどん」を食べたが、風邪の影響か味が合わず、半分で下げてしまった。他の皆さんは、美味しかったと思います。

国道１１号を行くと高松まで９２Km表示があった。やがて今日の宿「松屋旅館」に到着。感じの良い宿だった。

第６日目

１１月１３日（水）晴　　距離＝約３４Ｋｍ

松屋旅館発６：５０ー三角寺１１：４０ー１２：１５ー椿堂１４：３５ー曼陀峠下１５：３０ー観音寺荘（泊）１４：３０

歩きは最終日。皆で玄関前に並び記念撮影。女将さんに見送られ出発。まずは６５番札所・三角寺を目指す。目を転じれば三島川之江港が見えた。ここは大きな工業港で大型船が停泊する。何かのコンビナートがあるらしく、何本かの高い煙突から煙が噴き出していた。

１時間ほど歩くと宇摩地区に何とコープの診療所があった。コープ経営の病院は静岡周辺では見たことがない。歩きながら家々の観察をする。特に面白いのが表札。地方に来ると変わった表札があり楽しい。今日は「北風」家があった。今日はお蔭さまで穏やかな天気でしたが・・・。東・西・南風さんもあるだろうか？？（笑い）

今回こちらに来て畑が気になっていた。オジサンがヤマトイモみたいのを収穫していた。畑をやっている新ちゃんも興味深々。静岡のものとは違い、長いものでなく、薩摩イモのように丸形だった。静岡で育てたいので、譲ってくれと言ったら、これは門外不出で駄目とのこと。

松山自動車道を潜り山道を進む。この先の高い立派な石垣の下で、上からオバサンに声を掛けられた。ミカンを食べに来いとのこと。夫婦で石垣の上でミカンを作っていた。子供たちは街に出て暮らしているようだ。ミカンを貰い辞す。

川之江港を見下ろす快適な山道を辿れば三角寺着。入り口でババ様が駐車料金を徴収していた。長い階段を上り境内に入る。境内に小さな桜が咲いていた。その後、時間的に昼食だったが、この日何処で摂ったか記憶が定かでない・・・？？

山を下り椿堂に寄る。割合立派な寺だった。この先、愛媛・徳島・香川県境の境目トンネルに向かう。ここから最大の難所、６６番札所・雲辺寺始まる。しかし、今日は曼陀峠下でお終い。今回のお遍路は終わった。

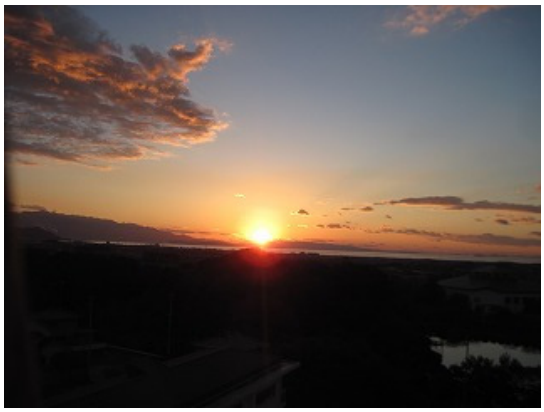
松屋旅館

畑のオジサン

ミカンのオバサン

三角寺

椿堂



観音寺荘の夕日

七宝山（２９９ｍ）

第７日目

１１月１４日（木）晴　　歩行距離＝０Ｋｍ

起床６：００ー宿発８：００ー下土狩１８：００ころ

観音寺荘はなかなか良い旅館だった。昨夕、ここに着いた時、見事な夕日が瀬戸内海に落ちていった。北には標高３００弱の七宝山が見えた。最終日も好天で、今回の旅の感謝をしつつ帰静した。

おわり